

ヒメコガネとハンノキコガネに就いて

澤 田 玄 正

ON *ANOMALA RUFOCUPREA* AND *A. MOTSCHULSKYI*

By HIROMASA SAWADA.

ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY¹⁾ とハンノキコガネ *Anomala motschulskyi* HAROLD²⁾ に就いて検討を加へてみたい。

HAROLD の記載と検索表及び新島・木下兩氏³⁾ の記載と検索表を総合してみると兩種の差異は大體次の 3 點に要約される (但色彩の點は甚だ變化に富むので除外する)。

<i>A. motschulskyi</i>	<i>A. rufocuprea</i>
(1) 翅鞘の點刻は平等で滑らかに見ゆ。	(1) 翅鞘の點刻は大小あり稍滑らかでない。
(2) 前背板に溷濁部なし。	(2) 前背板に溷濁部あり。
(3) 雄交尾器は鞘部 (Endpiece) の幅狭く、その先端の左右に突出する部は稍長し。	(3) 雄交尾器は鞘部太くその先端の左右に突出する部は稍短し。

而して HAROLD はこの (1) を主點として分けた様であり、新島・木下兩氏は (2) を主として分けられた様に推察される。自分の調査によると (1) は甚だ微細なる差異で區別のつくものもあるが何れに屬すべきか判らぬ個體が甚だ多數にある。(2) は概ね判然と區別されるが、脱落の場合もあり、又羽化直後は溷濁部のないもので時間を経ると溷濁部の出來てくる場合がある等區別點としては不適當と思はれる。然るに (3) は雄にのみ有効ではあるが區別點としては最も判然とせる様に思はれるので、雄交尾器の形狀によつて各地産の數多の標本を分類してみた所、同一箇所て採取された標本に於ては殆んど同一形狀を呈して居り、九州産のもの (第 1 圖 A) は判然と End piece 細く先端の突起部長く *motschulskyi* に該當するものと思はれ、東京以北産のもの (第 1 圖 D) に於ては何

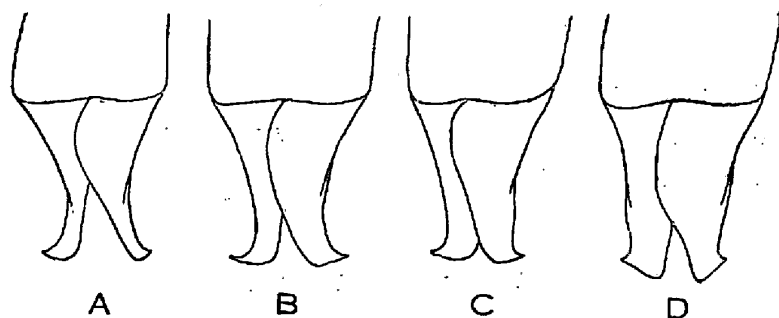
1) Etud. Ent. IX, 1860, p. 14.

2) Dent. Ent. Zeit. XXI, 2, 1877, p. 351.

3) 北大農學部演習林研究報告, 第二卷, 第二號, 1923.

れも End piece 太く *rufocupreus* に該當するものと思はれる。而して近畿地方に産するもの (第1圖 B) は *motschulskyi* に屬するものと思はれるが End piece 稍太くなり、静岡県方面に於て採取されるもの (第1圖 C) は *rufocupreus* に屬するものと思はれるが End piece 稍細くなり、これ等に於ては區別が判然としなくなる。

次にこの交尾器によつて分類した標本に就いて前述の區別點 (1), (2) を調べてみると, (1) は概ねこの交尾器の變化に應じて變化して行く様であるが, 極端の例を拾へば *rufocupreus* に屬すると思はれる交尾器のものが *motschulskyi* と思はれる交尾器のものよりも翅鞘の點刻が平等で滑らかに見える場合もあり, 又この反對の場合もある。(2) は本州中部以南のものに於て潤濁部なきもの多く, 中部以北のものに於て潤濁部を有するものが多いと云ふだけで反對の場合が甚だ多い。



第1圖 雄の交尾器

A. *Anomala motschulskyi* 九州熊本産 C. *A. rufocupreus* 静岡産
B. " " 大和宇陀産 D. " " 盛岡産

自分のこの交尾器の形状より推定した分類による分布表は第1表の如くであるが, 新島・木下兩氏の調査による分布は第2表の如くである。第2表が第1表と異なるのは兩氏が主として前背板の潤濁の有無によつて分けられた結果であらうと思はれる。

最後に結論として私の調査によればこの2者は完全なる別種として分け難く本州中部以南には *A. motschulskyi* に該當するものが分布し, 中部以北には *A. rufocupreus* に該當するものが分布し, 中部地方に於てこの2者の移行が認められるのである。依つてこの2者を同一種とみなし何れも *A. rufocupreus* とし, 強

